

Supply infrastructure/
environment-related items
required in social activities



コンドートック株式会社

決算説明資料

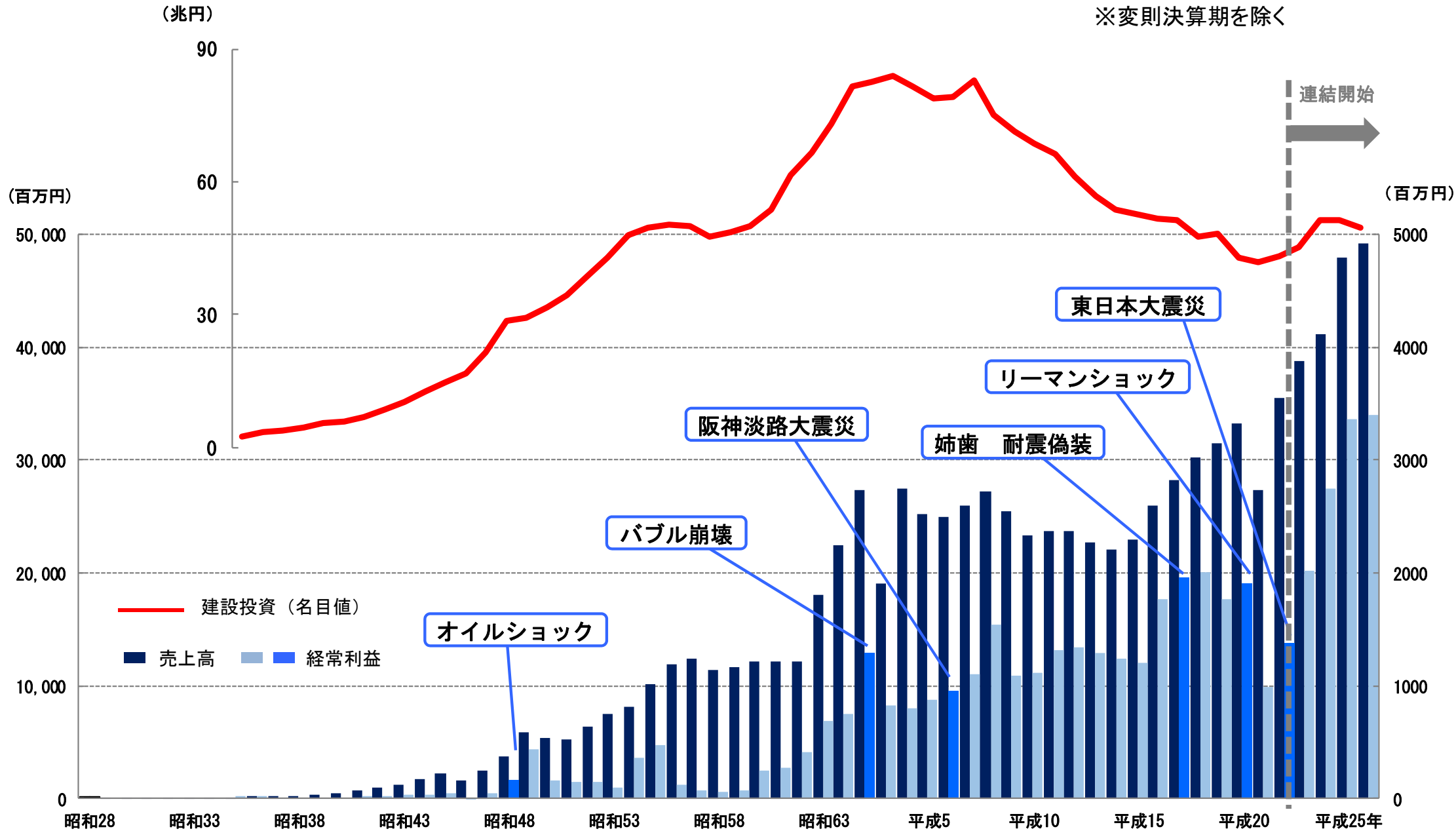
平成28年2月4日

1. 当社の概要	P. 3
2. 主要製・商品	P. 10
3. 平成28年3月期第3四半期の実績と分析	P. 15
4. 平成28年3月期第3四半期の各セグメントの実績と分析	P. 20
5. 成長戦略	P. 28
6. 株主還元	P. 38

1.当社の概要

昭和28年設立以来、経常利益ベースでの赤字は、一度もありません。

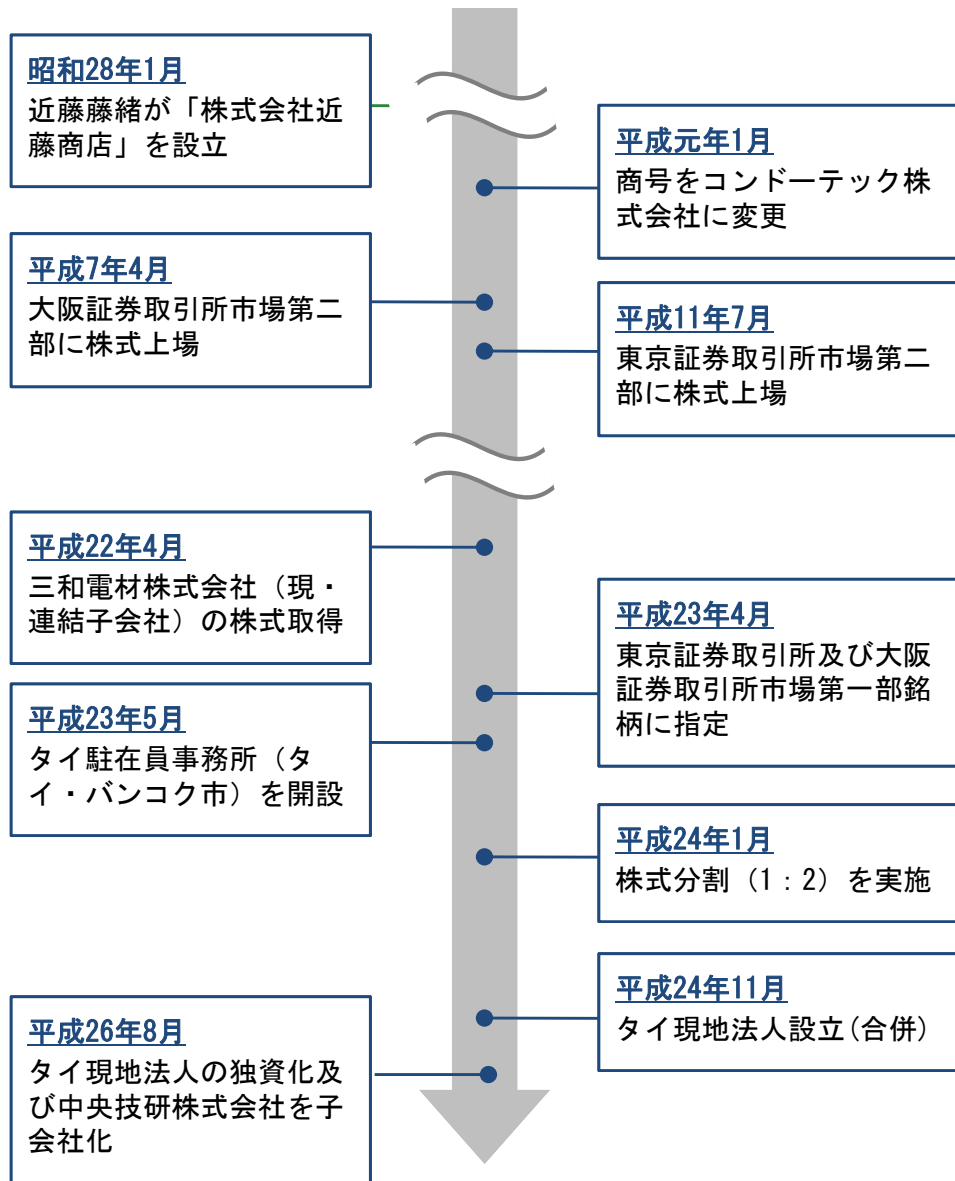
※変則決算期を除く



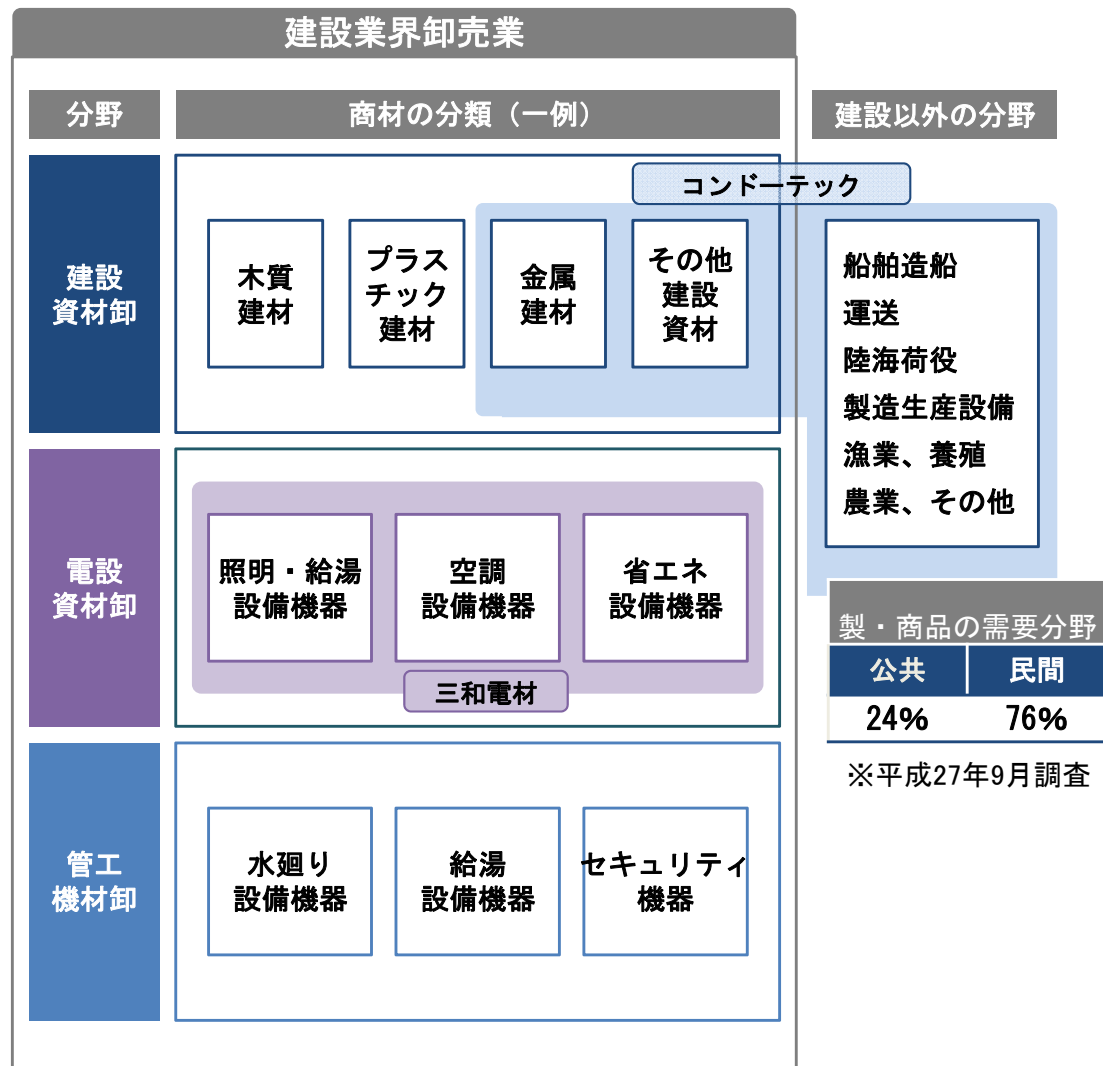
当社の概要

商号	コンドーテック株式会社 (KONDOTEC INC.)
グループ会社	三和電材株式会社、KONDOTEC INTERNATIONAL (THAILAND) CO., LTD.、中央技研株式会社
設立	昭和28年（1953年）1月
代表取締役社長	近藤 勝彦
本社	<p>本社：大阪市西区境川二丁目2番90号</p> <p>東京本社：東京都江東区南砂一丁目9番3号 <small>（注）平成25年7月1日より新たに「東京本社」を設置し、大阪との二本社制となっております。</small></p>
従業員	610名（単体）731名（連結）（平成27年3月末現在）
資本金	26億6,648万5千円
上場区分	東証1部
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> □ 金物小売業を中心に、産業資材を製造・仕入販売 □ 鉄骨加工業者向けに、鉄構資材を製造・仕入販売 □ 電気工事業者や電気小売店向けに、電設資材を仕入販売
主要取扱品目	<ul style="list-style-type: none"> □ 製品 ターンバックル、ブレース、足場吊りチェーン、ねじ製品、アンカーボルト、建設資材、機械装置他 □ 商品 金物類、チェーン、ワイヤロープ、鋸螺、建設資材、照明器具、分電盤、空調機器、エコ商品他

会社設立沿革



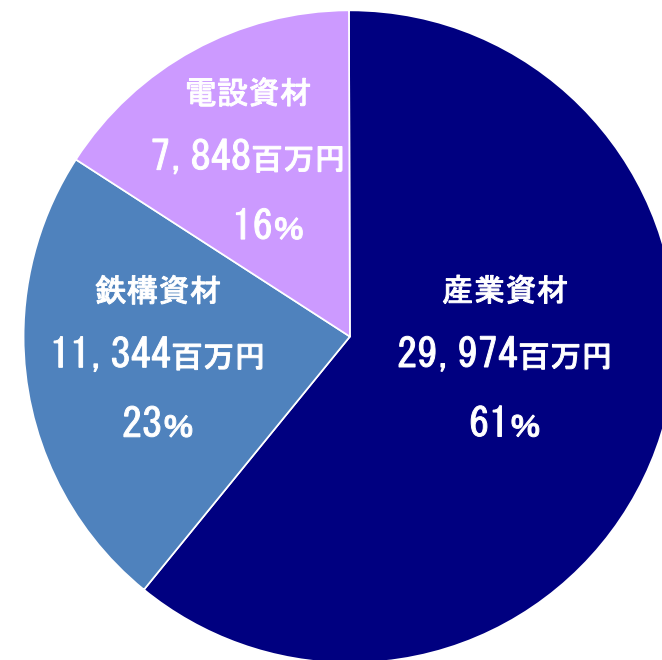
事業ドメイン



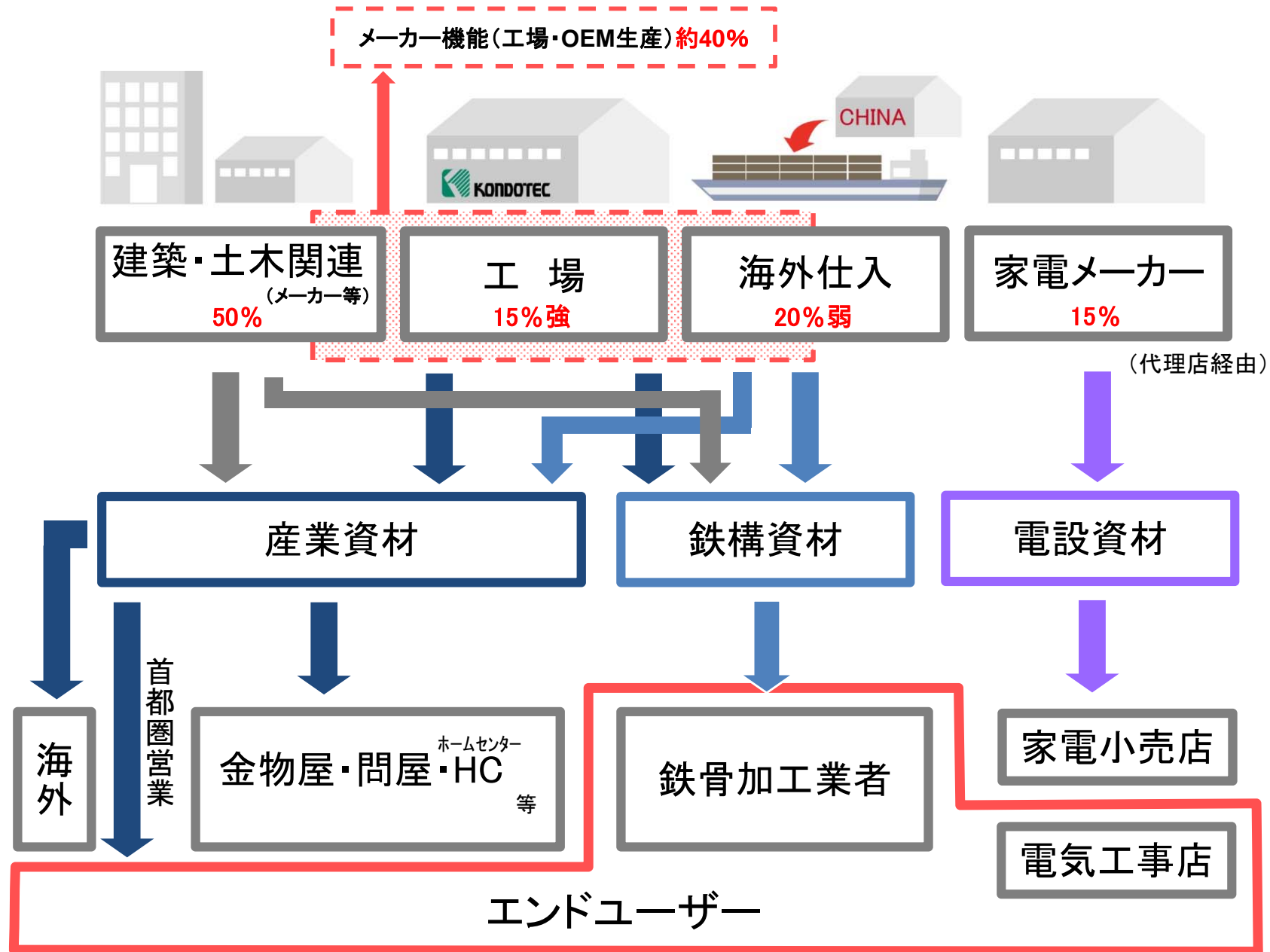
事業別売上構成

セグメント区分	主な販売先	主な製商品
産業資材	<ul style="list-style-type: none"> □ 金物屋 □ 問屋 □ ホームセンター等 	<ul style="list-style-type: none"> □ ターンバックル □ シャックル □ 足場吊りチェーン □ フック、クリップ □ 各種鋸螺（ねじ、釘） □ コンテナバッグ □ ブルーシート □ 機械装置 他
鉄構資材	<ul style="list-style-type: none"> □ 鉄骨加工業者 	<ul style="list-style-type: none"> □ ターンバックルブレース □ アンカーボルト □ ハイテンションボルト □ 自立コンピース □ コンデッキバー □ セラミックスタブ 他
電設資材	<ul style="list-style-type: none"> □ 家電小売店 □ 電気工事店 	<ul style="list-style-type: none"> □ 空調機器（エアコン、換気扇、ダクトファン） □ 照明器具（LED照明、住宅照明器具他） □ エコ商品（太陽光発電、エコキュート） □ 電線、分電盤、制御盤、各種センサー他

セグメント別売上高（平成27年3月期）



単体の売上高は、全体の84%を占めております。



主要商材の市場規模と当社シェア

<H27/3現在>

ブレース
市場規模
約100億円
32.2%

型枠関連資材
市場規模
約1,500億円
1.2%

Zマーク金物
市場規模
約400億円
3.3%

アンカーボルト
市場規模
約130億円
14.8%

ハイテンション
ボルト
市場規模
約170億円
12.7%

溶接ワイヤー
市場規模
約100億円
7.5%

コンテナバッグ等
市場規模
約300億円
10.6%

その他、ターンバックル、
足場吊りチェーン、シャックル、
ワイヤロープ、ネット・シート類
ハイテンションボルトなど、
多くの商材を販売しております。

2.主要製・商品

取扱いアイテムは5万点。時代の変化・ニーズに合わせ、さまざまな業界に供給しています。

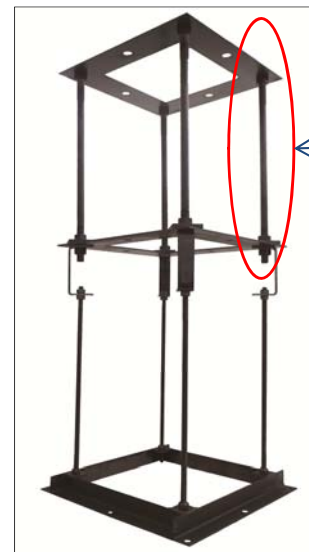
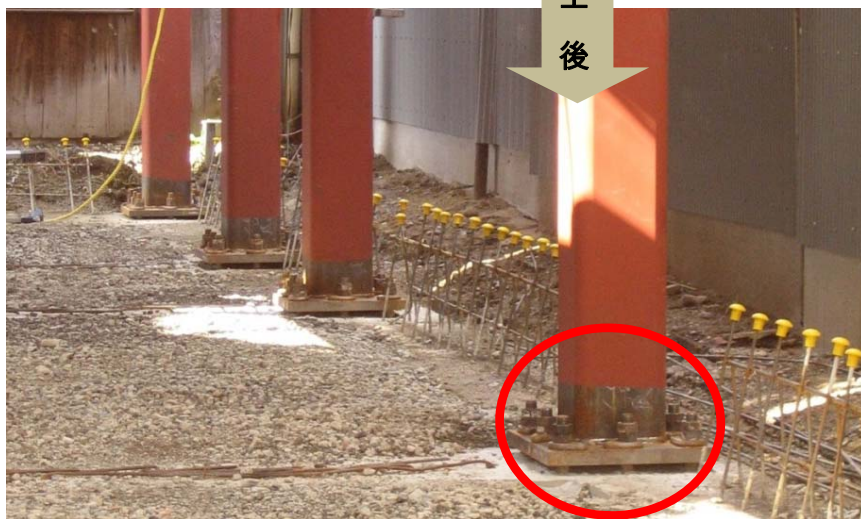




アンカーボルトは土地に施工した基礎コンクリートと建物をつなぐための重要部材です。基礎コンクリートに取り付けられた建物が移動や転倒することを防ぐ役割を持っています。



施工後



アンカーボルト



アンカーフレーム (コンベース・エコ)

当社のコンテナバッグは、がれき処理・除染作業でも使用されています。重機によって、がれき・除染土がコンテナバッグに収納され、仮置き場へ搬入されます。



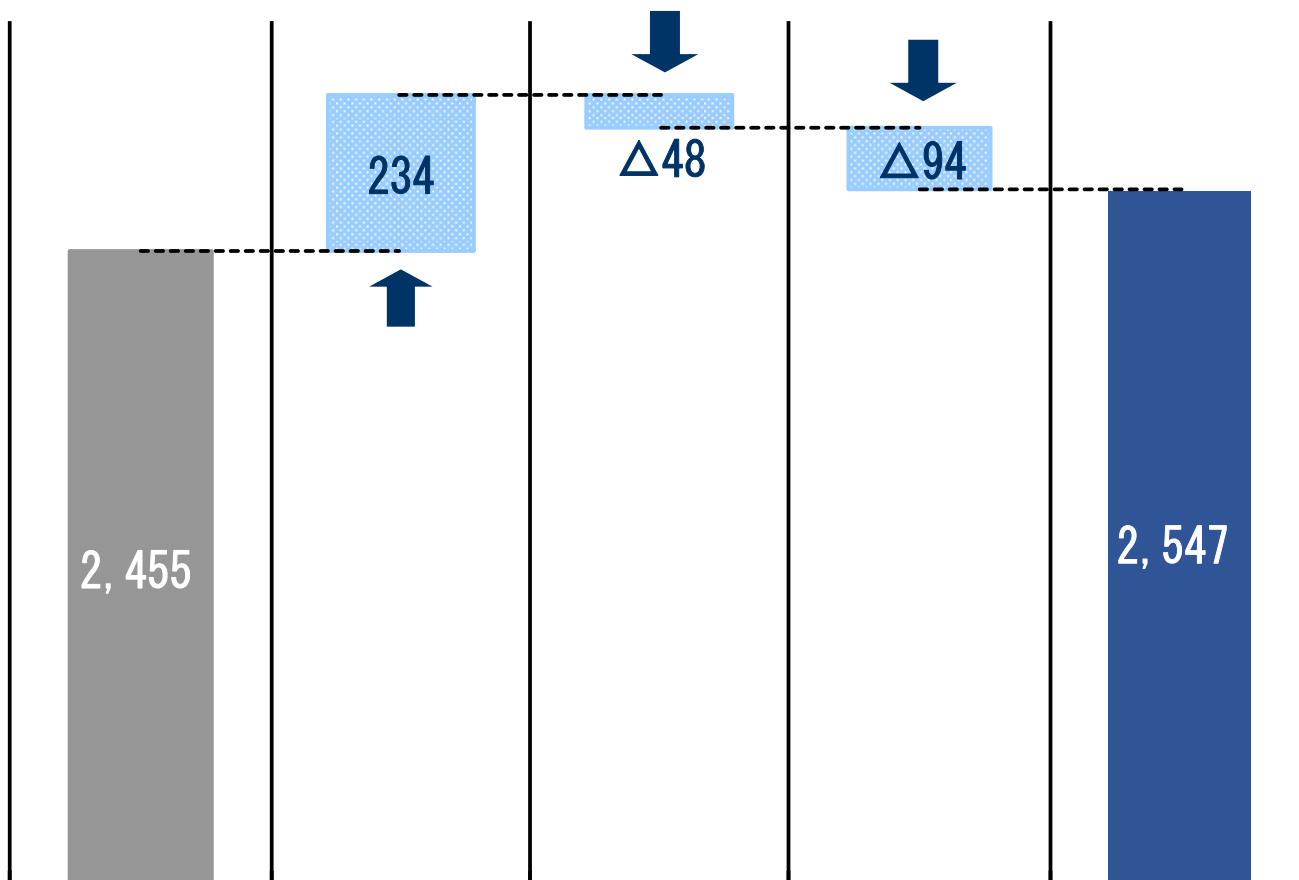
3.平成28年3月期第3四半期の実績と分析

(単位:百万円)

	前第3四半期 (平成27年3月期)	当第3四半期 (平成28年3月期)	前期比	
			金額	%
売上高	36,734	37,831	+1,097	+3.0
売上総利益	7,839	8,025	+185	+2.4
販売管理費	5,384	5,478	+94	+1.8
営業利益	2,455	2,547	+91	+3.7
経常利益	2,537	2,620	+83	+3.3
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,568	1,701	+132	+8.5

営業利益 前期比差異分析(連結)

(単位：百万円)

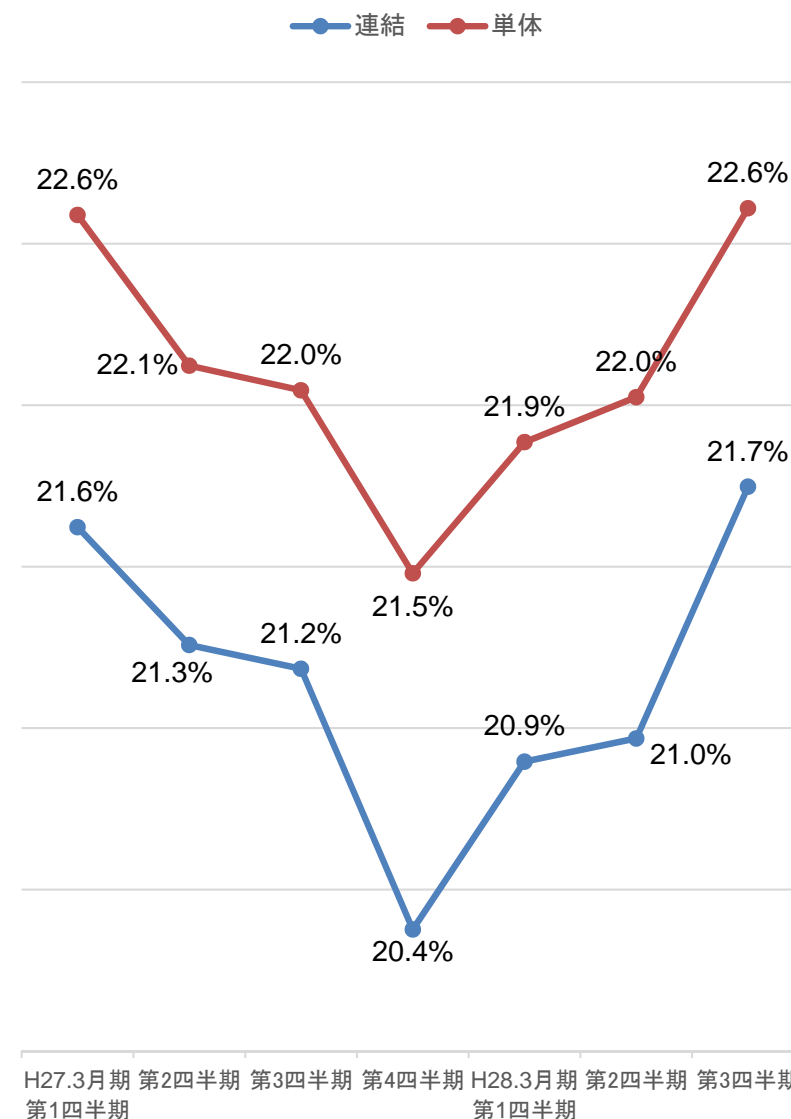


前第3四半期 売上高 売上総利益率 販売管理費 当第3四半期

売上総利益 21.3%→21.2%

販売管理費 貸倒引当金繰入額 +62百万円、運賃荷造費 +24百万円

売上総利益率の四半期別推移

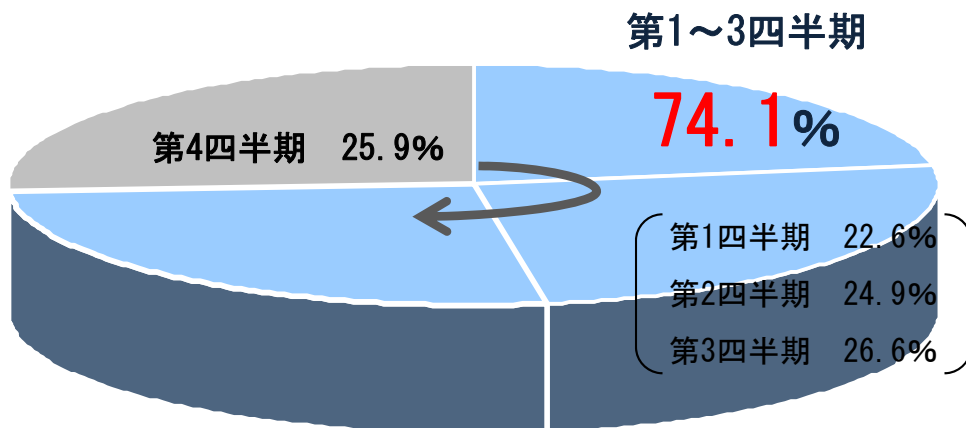


(単位:百万円)

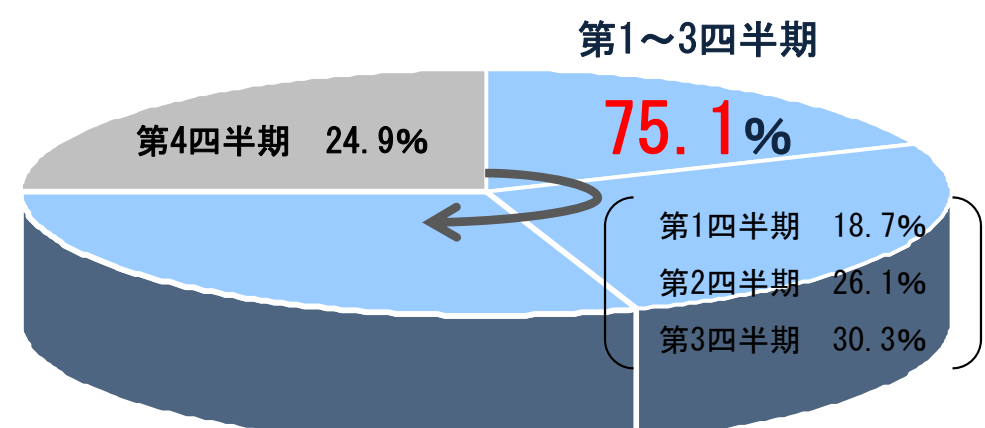
	当第3四半期			通期計画	進捗率	計画差	前第4四半期 (1~3月) 実績	当第3四半期 (10~12月) 実績	修正項目	利益計画を達成 するために必要 な金額
	実績	計画	計画差							
売上高	37,831	38,726	△895	51,500	73.5%	△13,668	12,433	13,059	売上総利益率 21.7%→	(※4) 12,788
売上総利益	8,025	8,251	△225	10,916	73.5%	△2,890	2,533	2,840	(※1)	(※3) 2,775
販売管理費	5,478	5,619	△141	7,480	73.2%	△2,001	1,685	1,886	→ (※2)	1,886
営業利益	2,547	2,631	△84	3,435	74.1%	△888	847	953	-	888
経常利益	2,620	2,711	△90	3,537	74.1%	△916	871	969	-	916
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,701	1,710	△9	2,231	76.2%	△530	529	624	-	530

(※1)直前の当第3四半期(10~12月)実績の売上総利益率を使用
 (※2)直前の当第3四半期(10~12月)実績の販売管理費の金額を使用
 (※3)(※2)の販売管理費に目標とする営業利益を逆算して算出
 (※4)(※1)の売上総利益率を用いて売上高を算出

四半期別売上高構成比 (過去5年平均)



四半期別営業利益構成比 (過去5年平均)



(単位:百万円)

	前期末	当第3四半期末	増減
資産の部			
流動資産	25,376	24,084	△1,292
固定資産	9,809	9,923	+113
資産合計	35,186	34,007	△1,178
負債の部			
流動負債	13,527	11,429	△2,098
固定負債	1,427	1,346	△80
負債合計	14,954	12,776	△2,178
純資産の部			
株主資本	21,294	22,431	+1,137
その他の包括利益累計額	△1,085	△1,233	△147
純資産合計	20,231	21,231	+999
負債・純資産合計	35,186	34,007	△1,178

(単位:百万円)

増減要因

資産の部

【流動資産】

- ・現金及び預金…△1,523 / 期日前弁済による減少

【固定資産】

- ・有形固定資産…+195 / 拠点展開の整備等による増加
- ・投資有価証券…△101 / 時価下落による減少

負債の部

【流動負債】

- ・未払法人税等…△323 / 中間納付を行ったことによる減少

- ・未払金…△2,137 / 一括支払信託による支払終了による減少

純資産の部

【株主資本】

- ・繰越利益剰余金…+1,120
- 親会社株主に帰属する四半期純利益により1,701百万円増加、
配当により582百万円減少

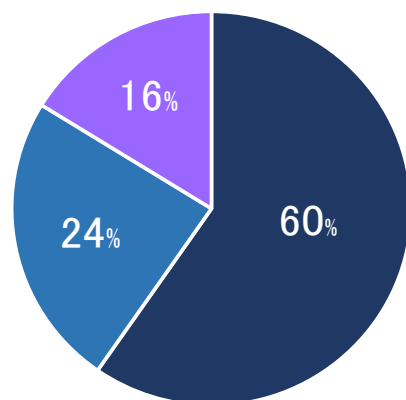
4.平成28年3月期第3四半期の各セグメントの実績と分析

(単位：百万円)

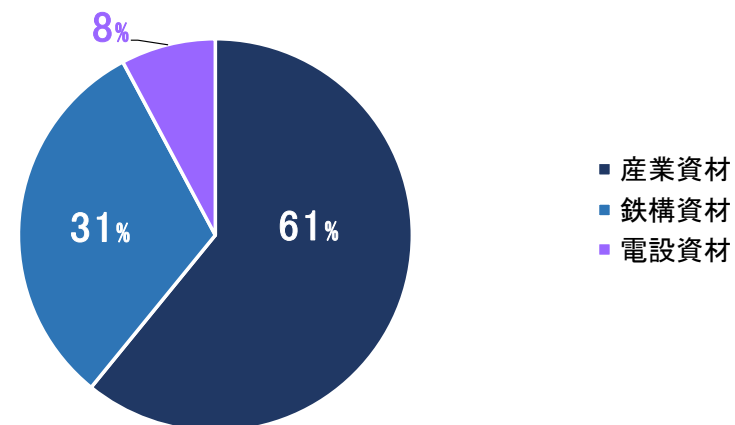
	売上高			セグメント利益又は損失		
	前第3四半期	当第3四半期	増減率	前第3四半期	当第3四半期	増減率
産業資材	22,432	22,568	+0.6%	1,646	1,553	△5.6%
鉄構資材	8,728	9,134	+4.7%	761	799	+5.0%
電設資材	5,573	6,128	+10.0%	110	198	+80.7%
調整	—	—	—	△62	△5	—
計	36,734	37,831	+3.0%	2,455	2,547	+3.7%

※セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

セグメント別売上割合



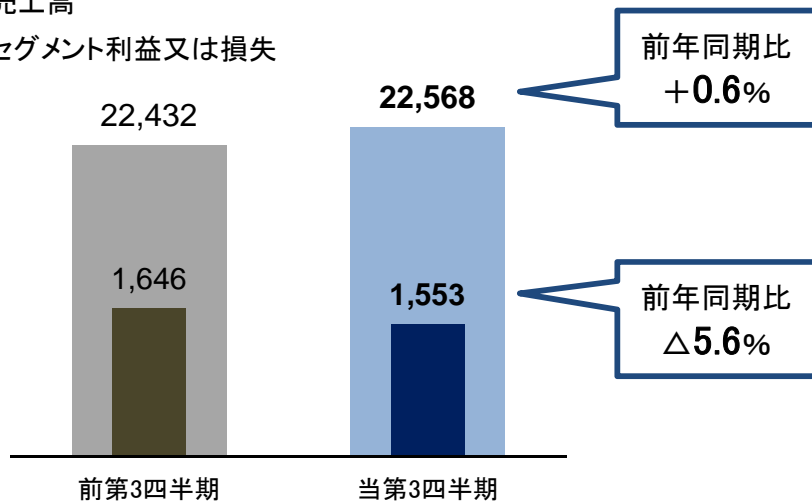
セグメント別利益割合



売上高・セグメント利益又は損失推移

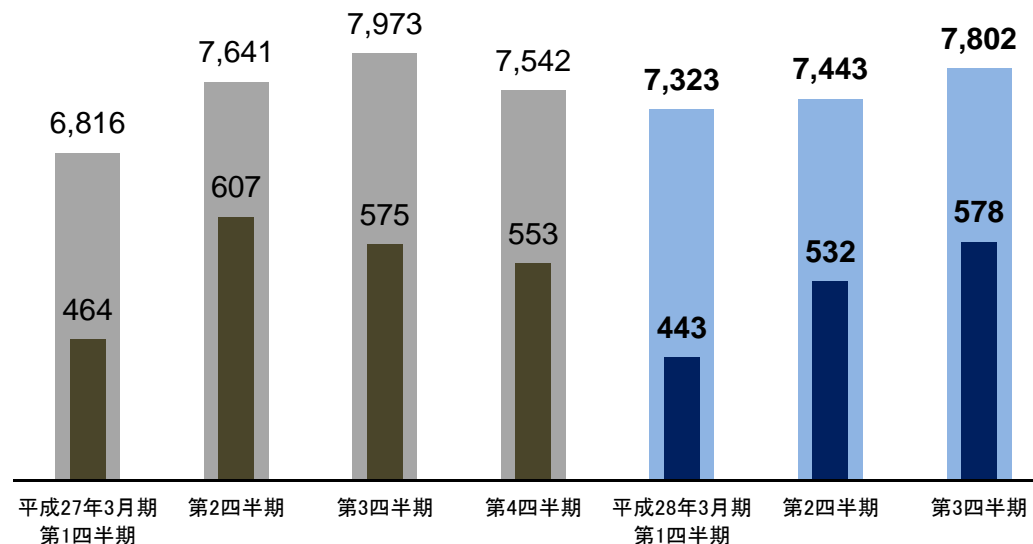
■ 前年同期比較

- 売上高
- セグメント利益又は損失



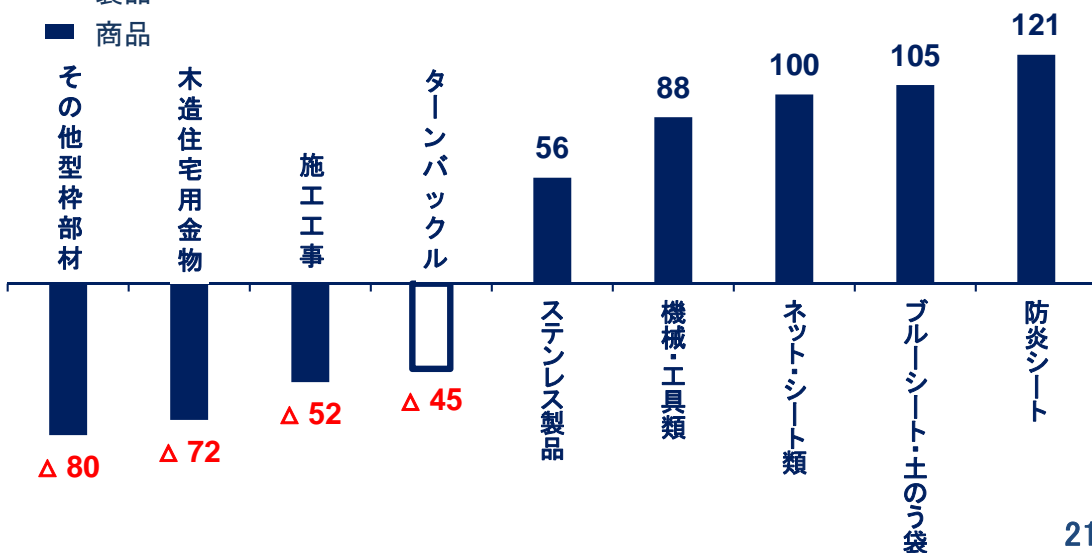
■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較

- 製品
- 商品



売上高増減要因

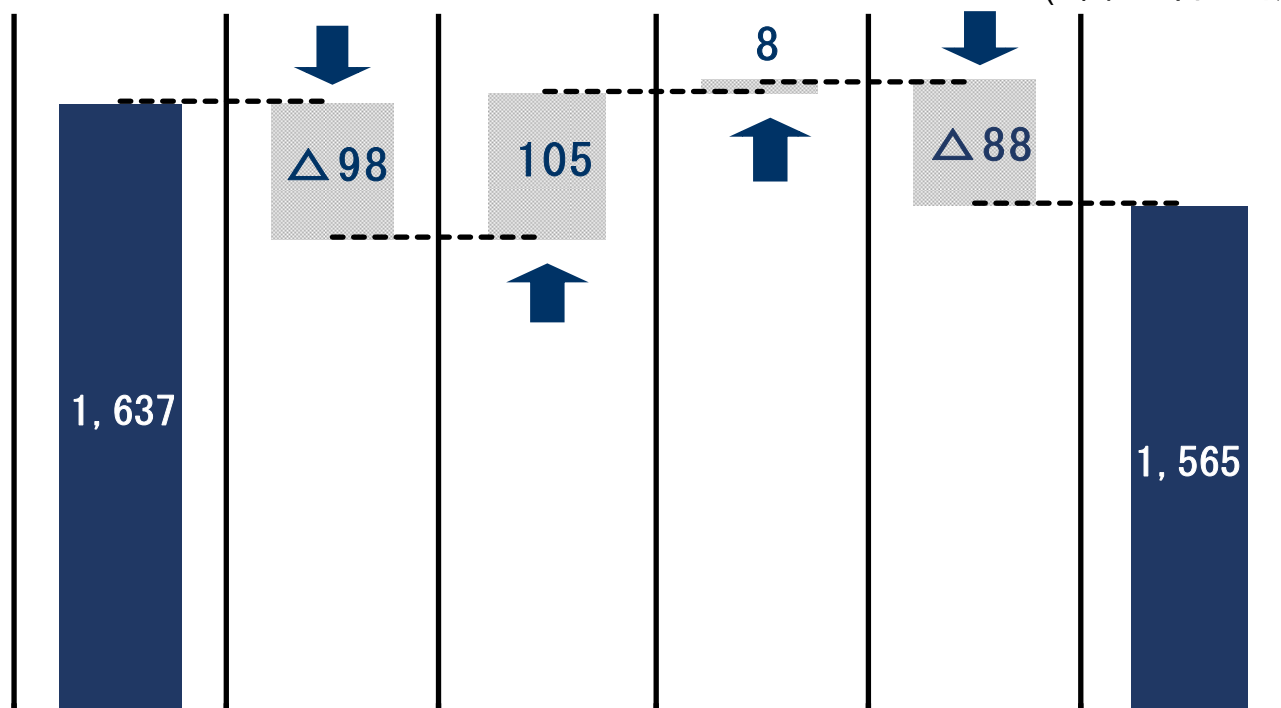
前年同期と比較して、約**140**百万円の増加。

土木関連の工事が減少し、地域によっては公共工事の減少の影響が出始めており、加えて人手不足等による工事の着工時期や進捗の遅れなどにより停滞感を強めていく状況にあるが、除染工事や都市部での再開発事業の需要を取り込み、各資材が堅調に推移。

- 製品 約△60百万円
 - ターンバックル / △45百万円 住宅不況により減少
- 商品 約+200百万円
 - 防災シート / +121百万円 除染関連の需要増

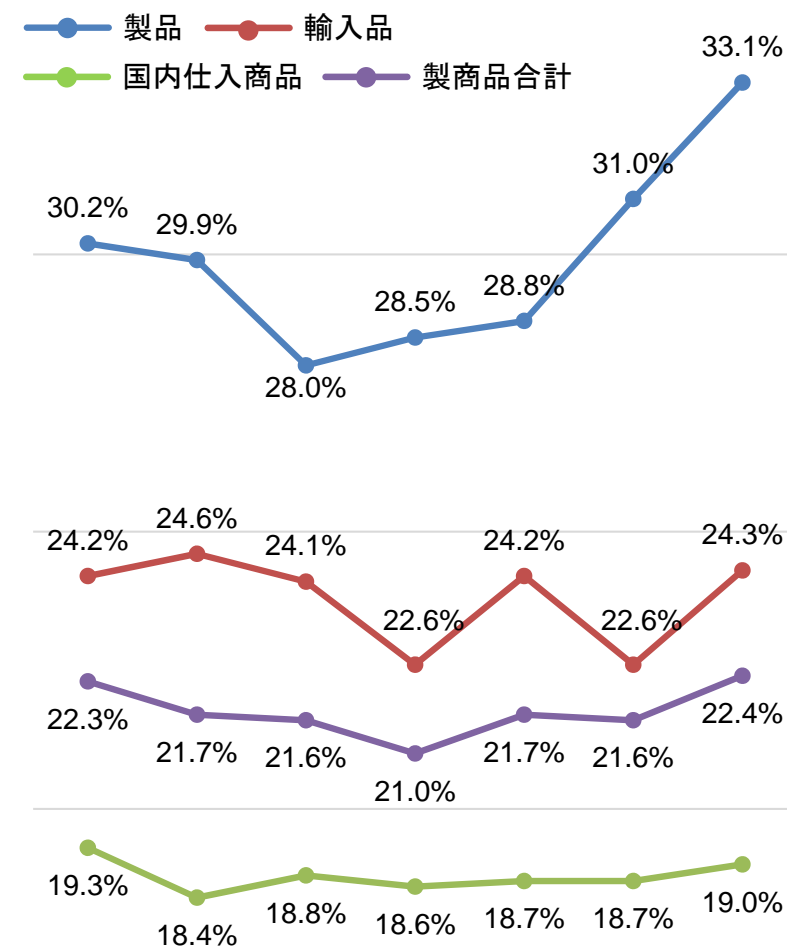
セグメント利益又は損失 差異分析

(単位：百万円)



前第3四半期 販売数量 販売価格 売上総利益率 販売管理費 当第3四半期

販売数量	製品 △47百万円、商品 △51百万円
販売価格	製品 +16百万円、商品 +89百万円
売上総利益	製品 29.3%→31.0%、商品 20.6%→20.4%
販売管理費	修繕費 +6百万円、消耗品費 +5百万円

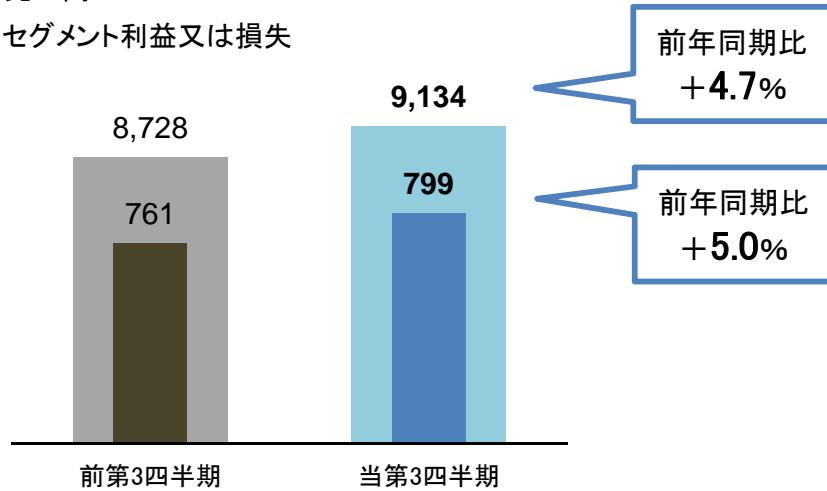
売上総利益率の四半期別推移

 H27.3月期 第2四半期 第3四半期 第4四半期 H28.3月期 第2四半期 第3四半期
 第1四半期 第1四半期

※差異分析及び四半期別利益率推移には、タイ現地法人および中央技研は加味されておりません。

売上高・セグメント利益又は損失推移

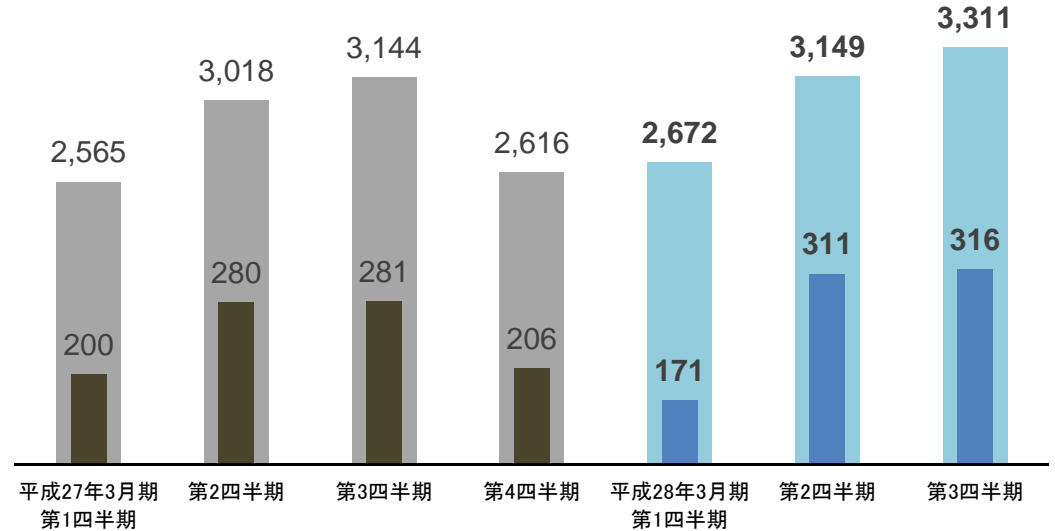
■ 前年同期比較

- 売上高
- セグメント利益又は損失



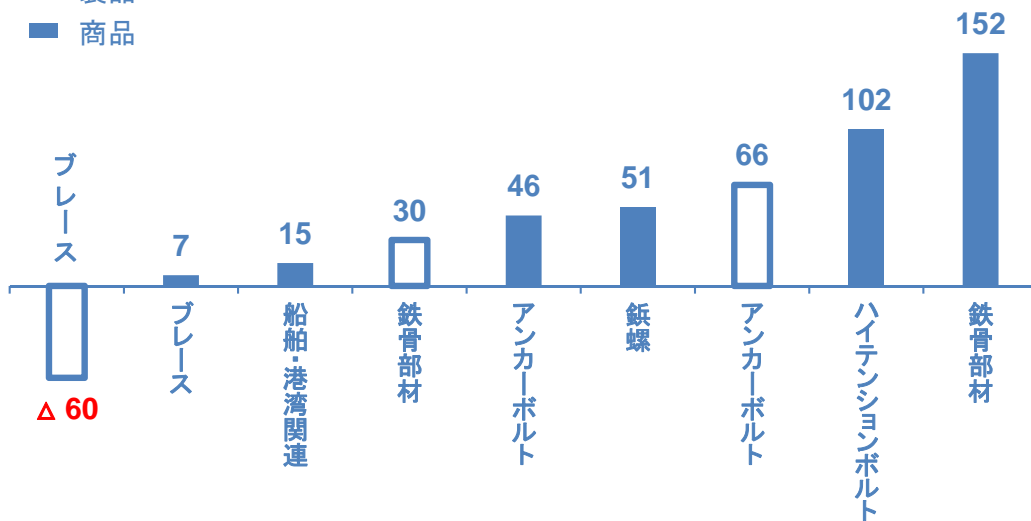
■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較

- 製品
- 商品



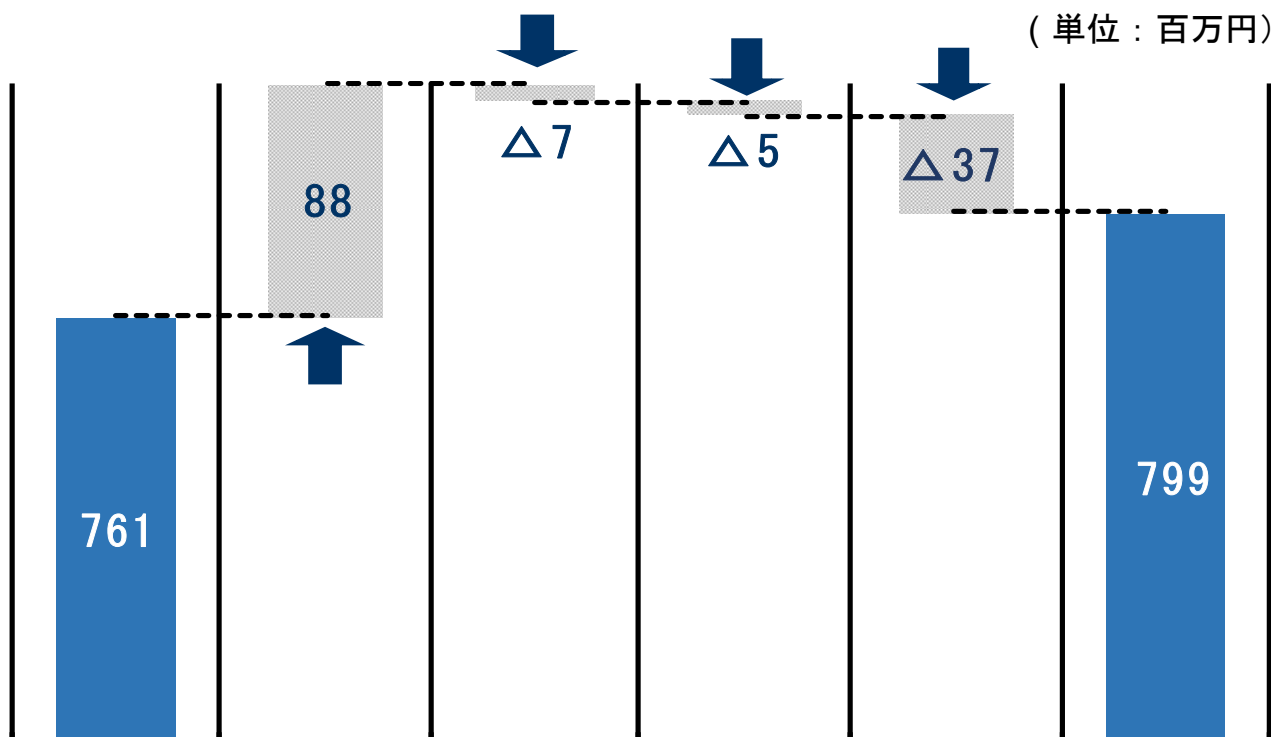
売上高増減要因

前年同期と比較して、約**400**百万円の増加。

鉄骨建築の需要の回復に伴い鉄骨加工業者の工場稼働率は高水準を維持しており、物流倉庫や商業施設などの大型低層物件、耐震改修工事などは全国的な展開をみせている。

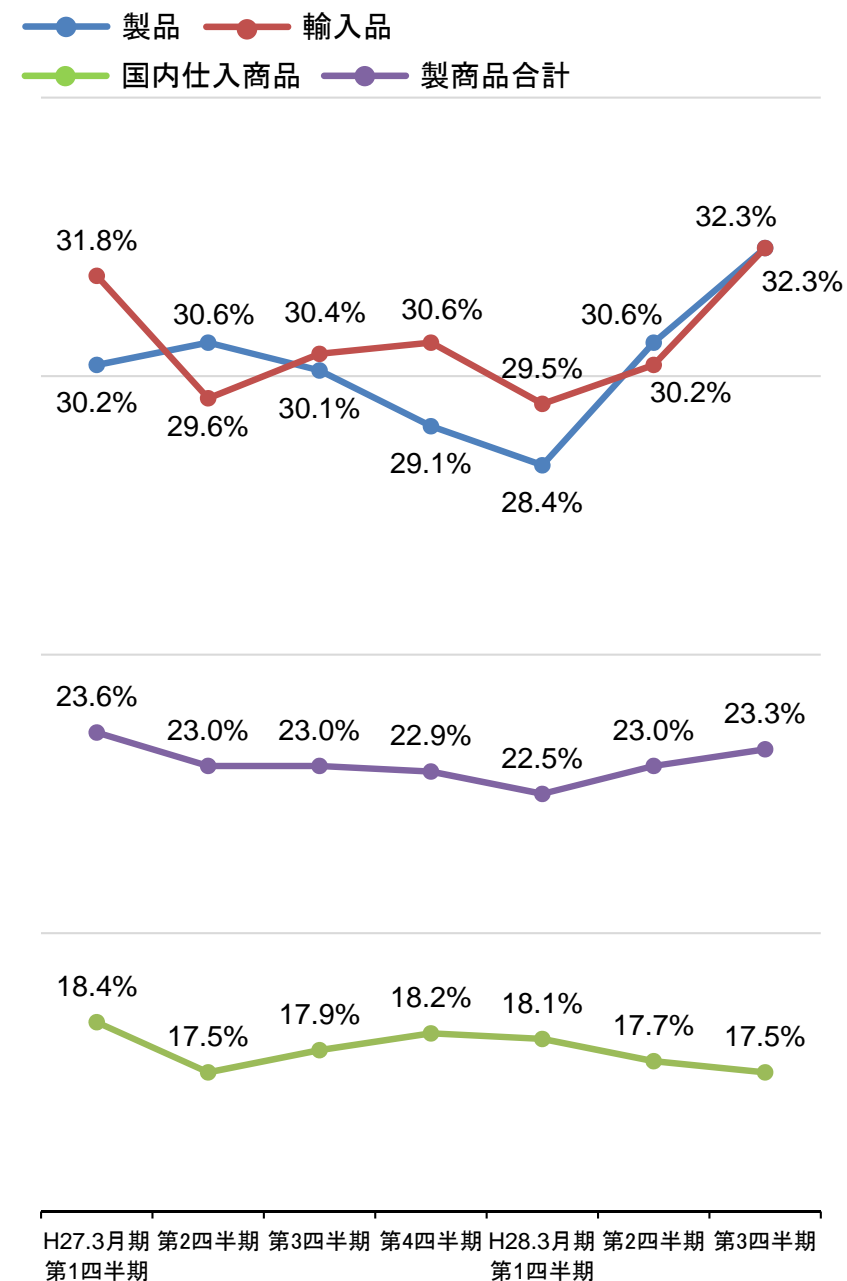
- 製品 約+30百万円
- アンカーボルト/+66百万円 物件の増加による受注増

- 商品 約+370百万円
- 鉄骨部材/+152百万円 物流倉庫・商業施設向けの受注増

セグメント利益又は損失 差異分析


前第3四半期 販売数量 販売価格 売上総利益率 販売管理費 当第3四半期

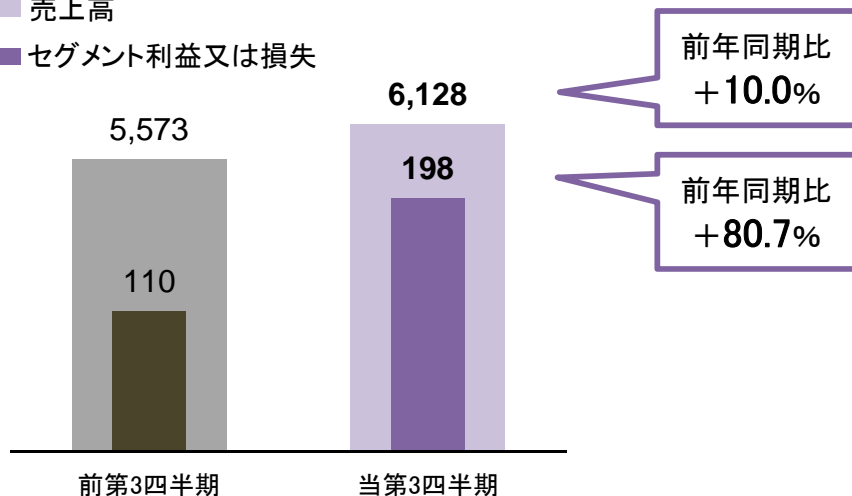
販売数量	製品 +25百万円、商品 +63百万円
販売価格	製品 △15百万円、商品 +8百万円
売上総利益	製品 30.3%→30.5%、商品 19.3%→19.0%
販売管理費	運賃荷造費 +22百万円

売上総利益率の四半期別推移


売上高・セグメント利益又は損失推移

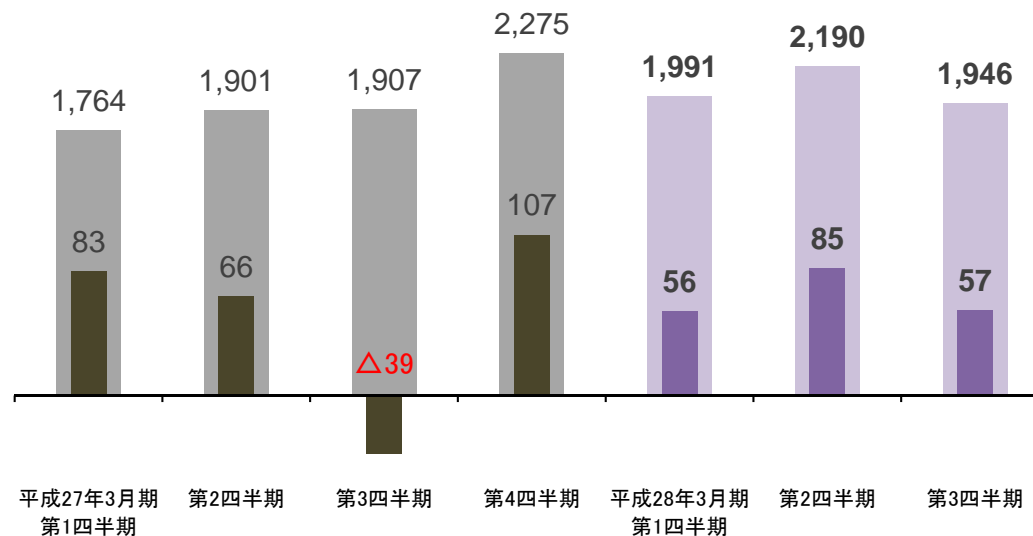
■ 前年同期比較

- 売上高
- セグメント利益又は損失

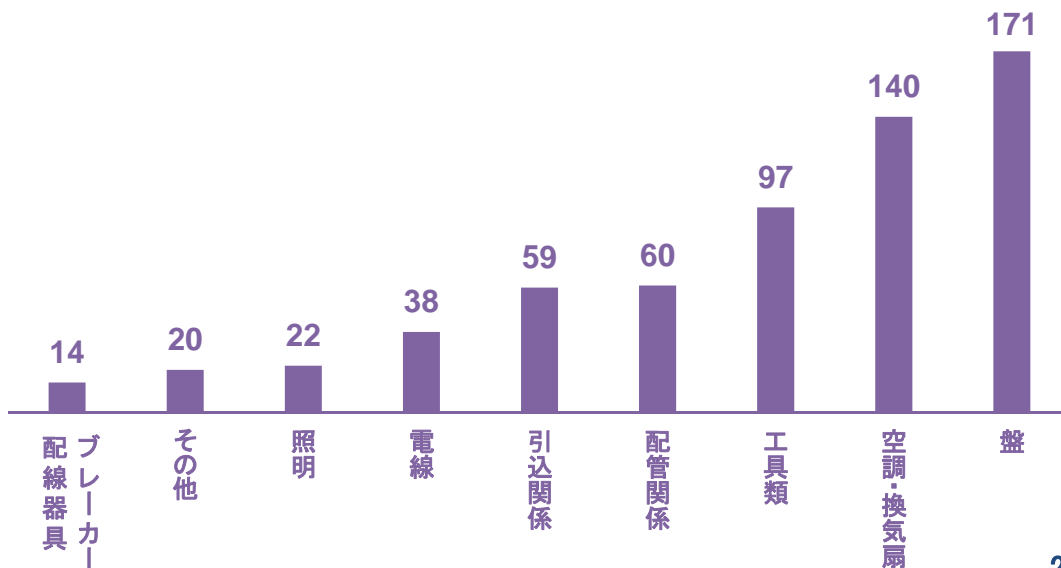


■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較



売上高増減要因

前年同期と比較して、約**560**百万円の増加。

□ 盤 +171百万円

大型太陽光発電設備物件のキュービクル、商業施設等のキュービクル・動力盤・電灯盤の売上増

□ 空調・換気扇 +140百万円

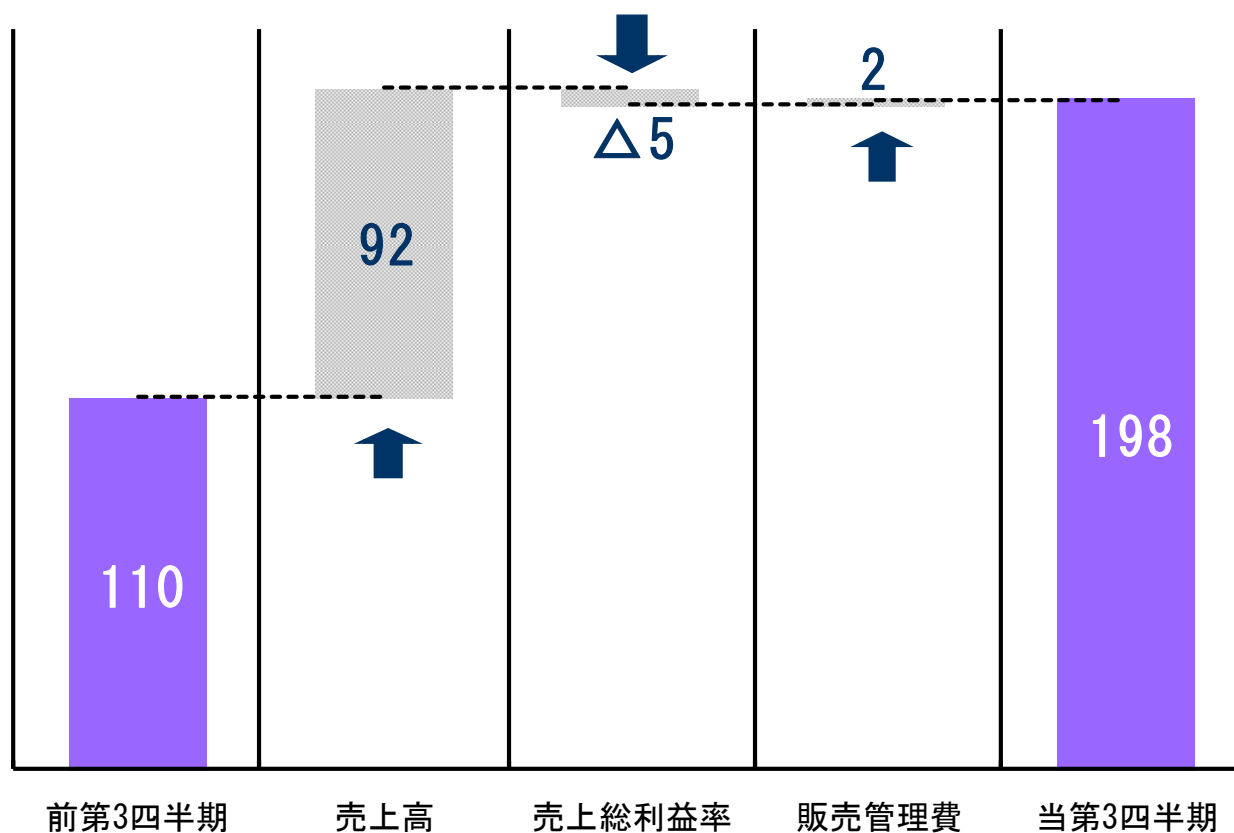
エアコン販売量の増加、大口物件増加による売上増

□ 工具類 +97百万円

太陽光関連部材の売上増

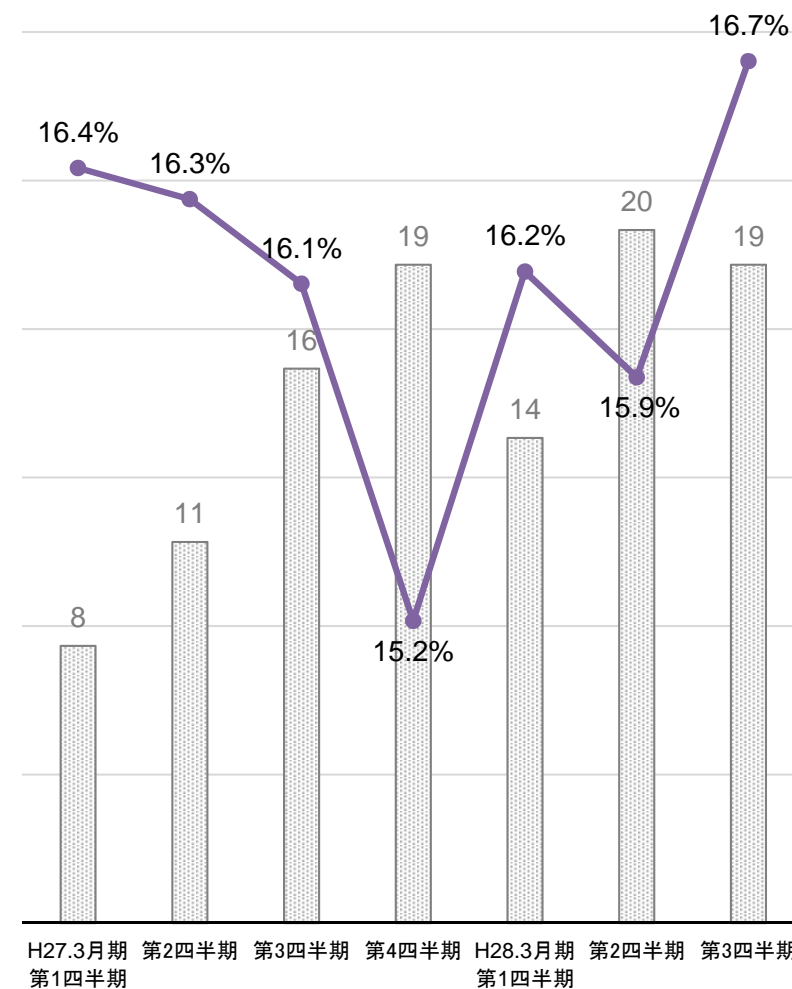
セグメント利益又は損失 差異分析

(単位：百万円)



売上総利益率の四半期別推移

■ 物件数※(単位:件) ● 売上総利益率



売上総利益 16.2%→16.1%

販売管理費 貸倒引当金繰入額 +46百万円、
退職給付費用 Δ76百万円

5.成長戦略



①震災復旧・復興需要

②異常気象への対応

③新商材の開発

④海外への取り組み

⑤M&A戦略



⑥成長戦略～売上目標達成に向けて～

東日本大震災関連資材の売上高（単体）推移

（単位：百万円）

	売上高					合計
	H24/3月期 通期	H25/3月期 通期	H26/3月期 通期	H27/3月期 通期	H28/3月期 第3四半期	
ブレース	200	18	87	153	143	603
トラ網セット	126	—	—	—	—	126
コンテナバッグ	281	263	316	308	249	1,419
ブルーシート	152	153	203	254	219	983
土のう袋	52	51	79	108	121	413
その他	239	187	200	307	296	1,231
合計	1,053	674	887	1,132	1,030	4,779

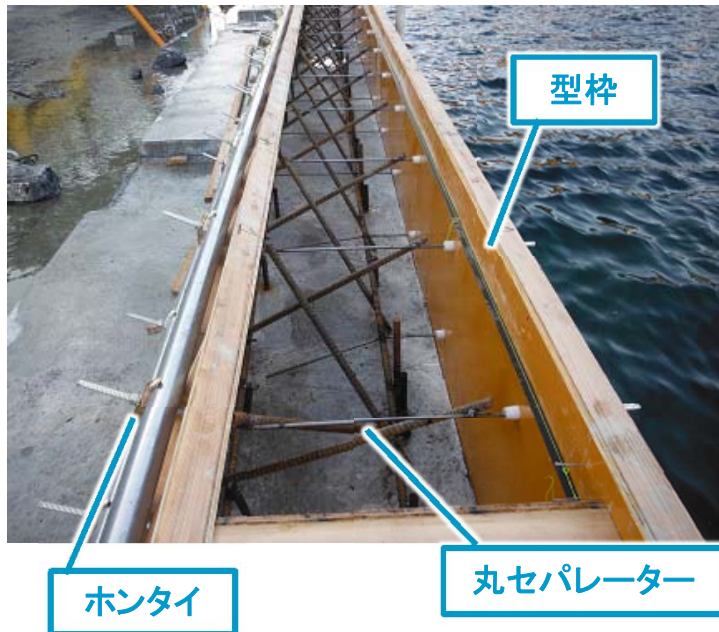
主な復興工程表

 平成25年度工程表
 現在の工程表

年度	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29～	備考
がれき処理							福島県内一部を除き、H26.3月末までに完了
海岸対策							全ての区間について、概ねH30年度の完了を目指す
集団移転促進事業							引き続き推進
復興道路							引き続き、本格的に整備を推進
除染							5兆円超？長期

※復興庁の資料を基に作成（平成27年7月において工程表更新）

港湾関連



がれき処理・除染作業



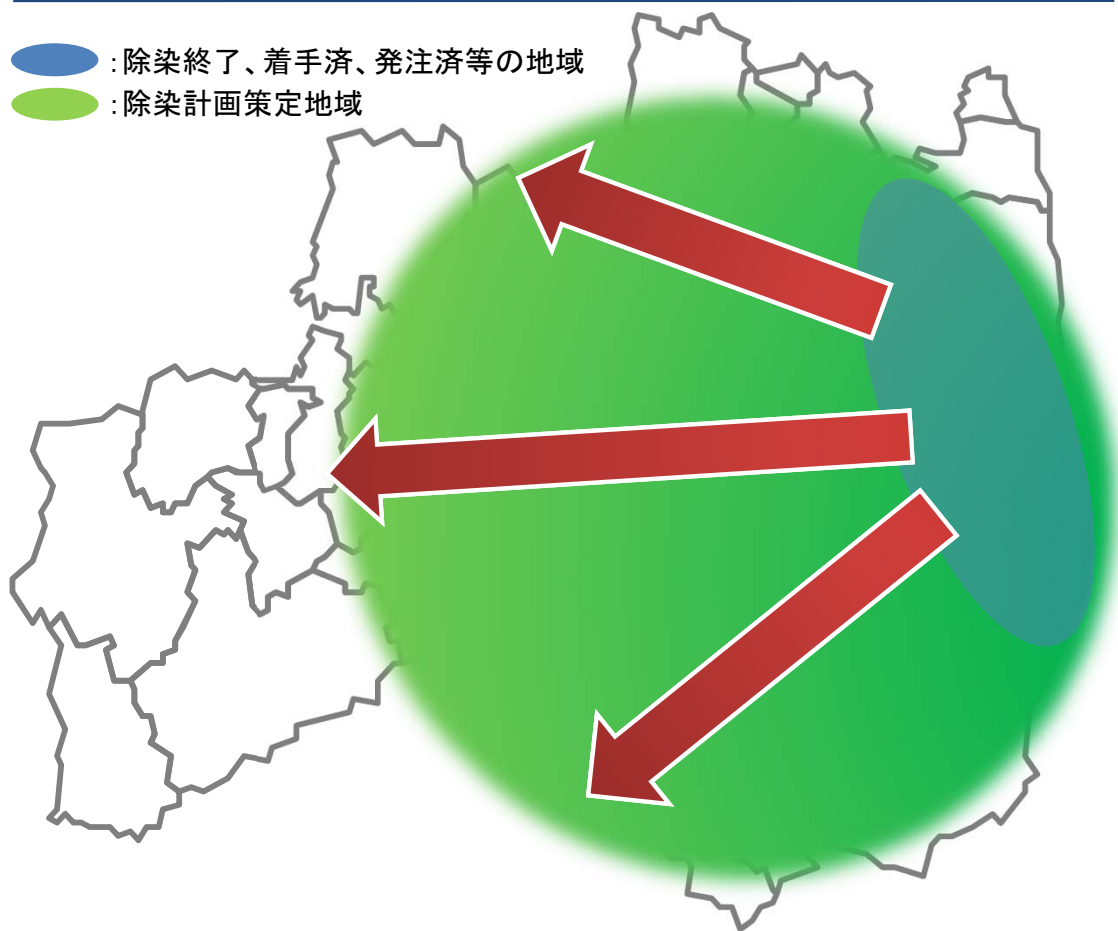
建築物耐震化



除染作業の広がり

- 東京電力福島第一原子力発電所の事故により、環境中に放出された放射線物質を取り除く除染作業が継続して行われております。
- 除染作業において処理されるがれきや除染土等の収納に、当社の商品であるコンテナバッグ等が多く使用されております。

福島県 除染作業地域

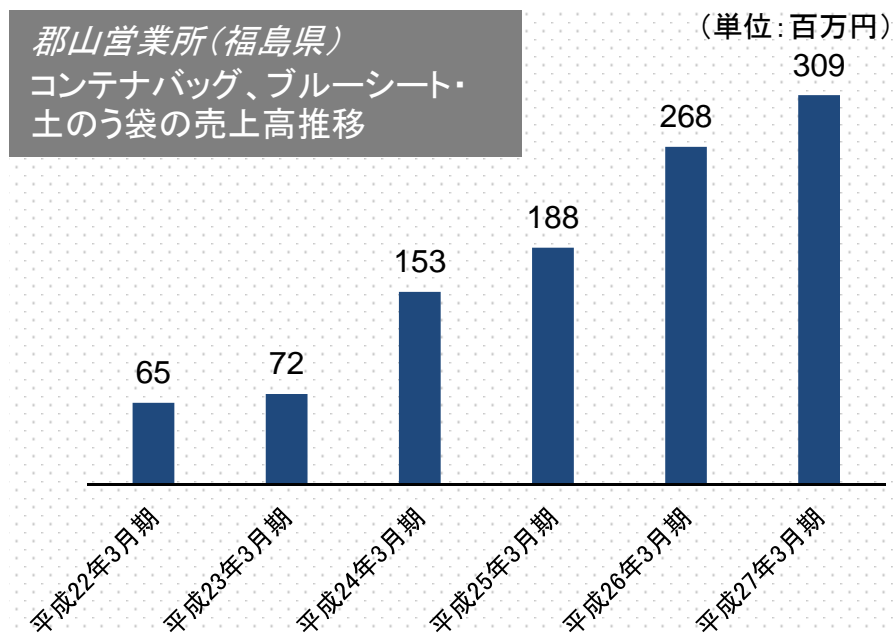


※環境省「除染情報サイト」の情報を基に作成

がれき・除染土の収納されたコンテナバッグ仮置き場

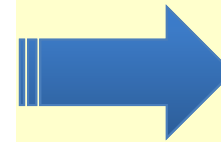
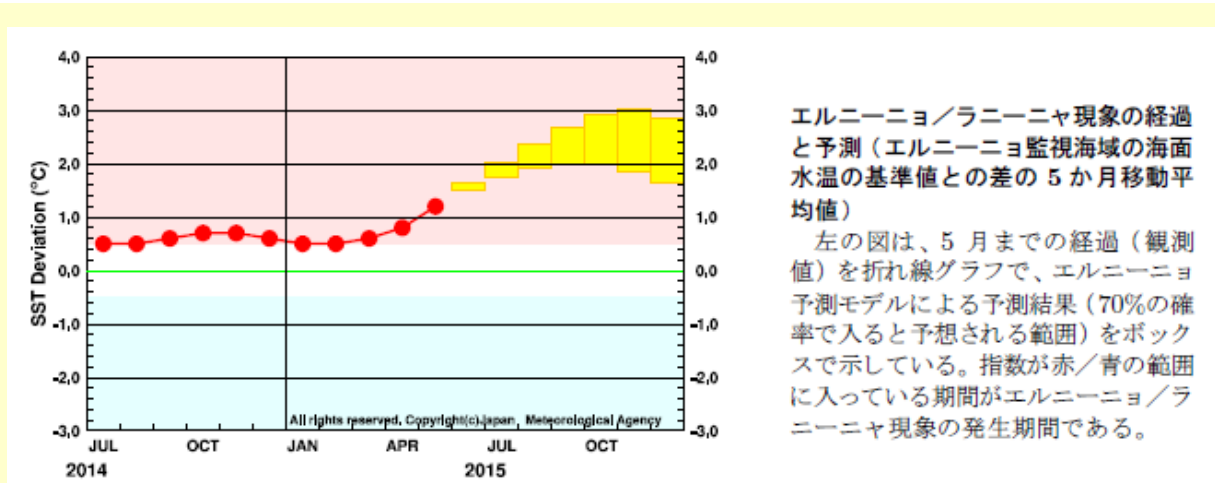


郡山営業所(福島県)
コンテナバッグ、ブルーシート・
土のう袋の売上高推移



異常気象の動向

- 気象庁によると、今夏から今秋にかけてエルニーニョ現象が過去最大規模になる可能性があり、気候変動を前提とした全国的な洪水・土砂災害対策の見直しが急務と考えられております。



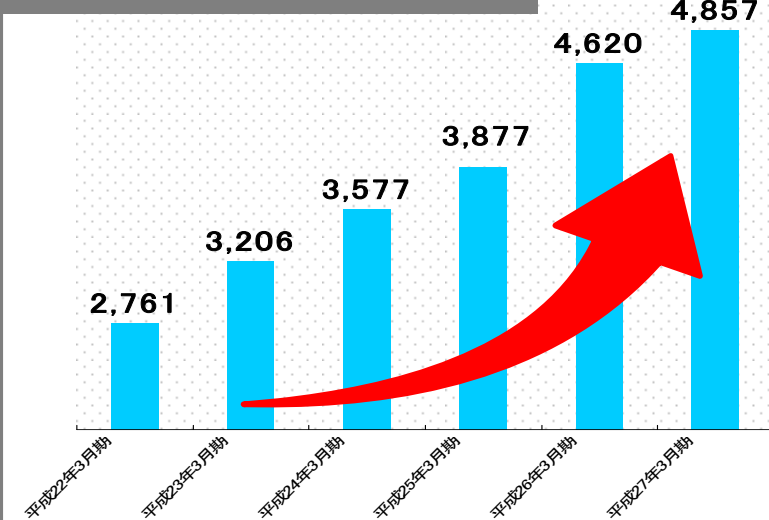
エルニーニョ現象発生期間が、今後長引くことがわかる

大雨や洪水への警戒が必要

※気象庁、H27.8月『エルニーニョ監視速報(No. 275)』より抜粋

建設資材4商品の売上高推移

(単位:百万円)



直近5年間で、

約**2,100**百万円の増加

今後も大雨などによる被害が拡大する恐れがあるため、さらなる需要の伸びが予想されます。

※左グラフには、除染作業に使用されたコンテナバッグ、ブルーシート・土のう袋は、含まれておりません。

ブルーシート・土のう袋類



コンテナバッグ



防災シート類



ネット・シート類



新分野への取組み

営業部門、製造部門合同の新商材委員会を開催し、新商材開発に積極的に取り組んでおります。

排水名人

- 排水名人は、線路上で発生する噴泥発生を未然に抑える排水材。



←列車の震動により、液状化した泥があふれ出し、軌道の沈下等につながり安全性が損なわれる。



←枕木間を掘り下げ、排水名人を埋めることにより、軌道内の排水を行い、泥の発生を防ぐ。



イエローポイント・シリーズ

- 日本で唯一のW.D.C代理店として全国展開

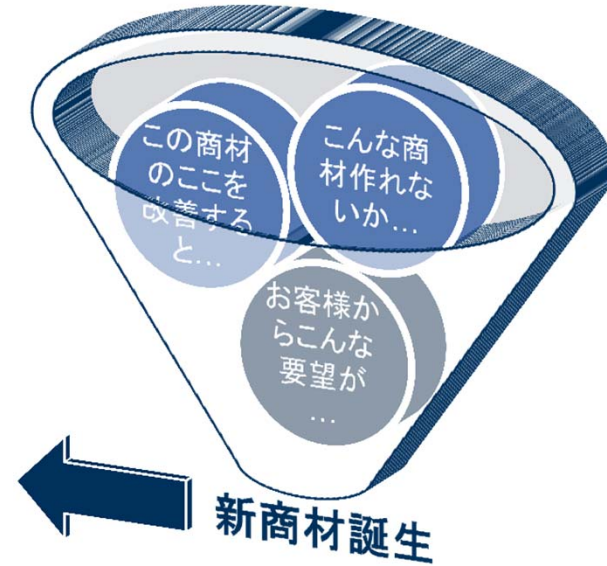
当社は、台湾の吊り具メーカーYOKE INDUSTRIAL COAP.と、同社が製造する自在アイボルト(360°回転式吊りボルト)「イエローポイント・シリーズ」のW.D.C契約を締結。

イエローポイント・シリーズは、すでに欧米などで高い評価を得ており、YOKE社と共同で日本及びASEAN地域での拡販を目指す。



YOKE

※W.D.C契約とは、YOKE社の製品であるイエローポイントシリーズの販売に関し、日本国内における販売特約店を意味するWorldwide Distribution Center(W.D.C)に当社を指定する契約。



さらに...
連結子会社 中央技研(株)と連携し、
開発力の向上を目指します。

中央技研(株)会社概要

設立	昭和56年	資本金	450万円
事業内容	各種機械装置、省力化機器、搬送ライン等の設計製造業 自動車、家電関連向けの電子部品、産業機械ほか、各種機械装置を手掛ける		

タイ現地法人の設立・子会社化

- 経済発展が著しいタイ、インドネシア、ベトナムといったASEAN諸国との海外取引（建設資材等の新規需要への取り組み）を強化すべく、平成24年11月、新たにタイ現地法人を設立いたしました
- 平成26年8月、タイ現地法人の増資を行い増資後、共同出資会社2社より全所有株式を取得し、実質的に当社の完全子会社といたしました。事業拡大に向けた財務基盤の強化を図り、さらなる輸出強化の布石といたします。

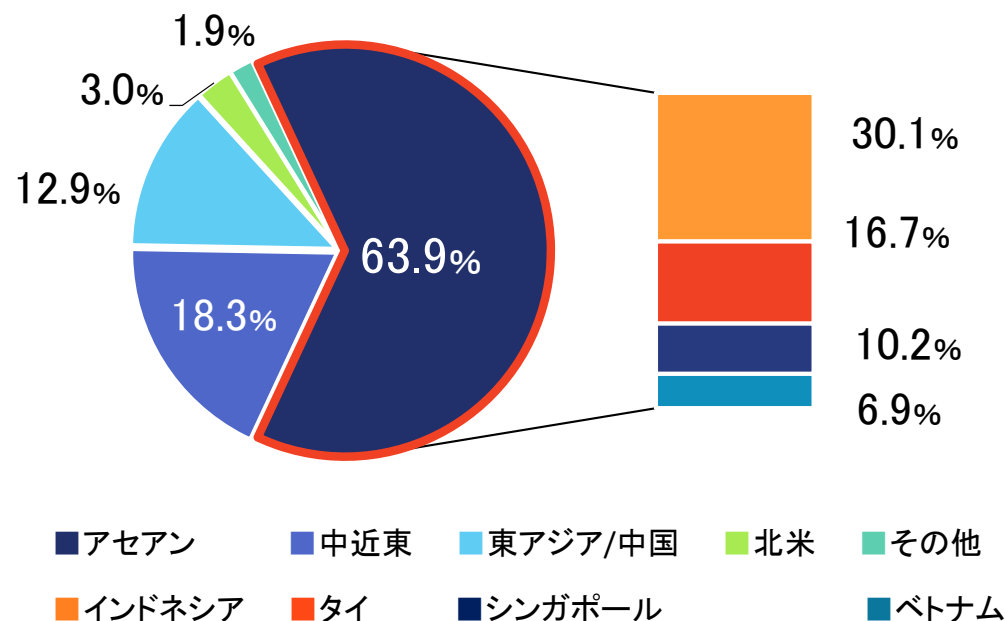
タイ現地法人の会社概要



商号	KONDOTEC INTERNATIONAL (THAILAND) CO., LTD.
本社所在地	タイ・バンコク市内
事業内容	タイにおける産業資材、鉄構資材及び電設資材等の輸出入と現地国内販売
資本金	102百万バーツ（約316百万円） ※4百万バーツから増資
設立年月日	平成24年11月1日

平成28年3月期第3四半期の状況

輸出売上高 約2.6億円



※海外営業部・輸出売上高、及び、タイ現地法人の売上高を販売経路別に集計



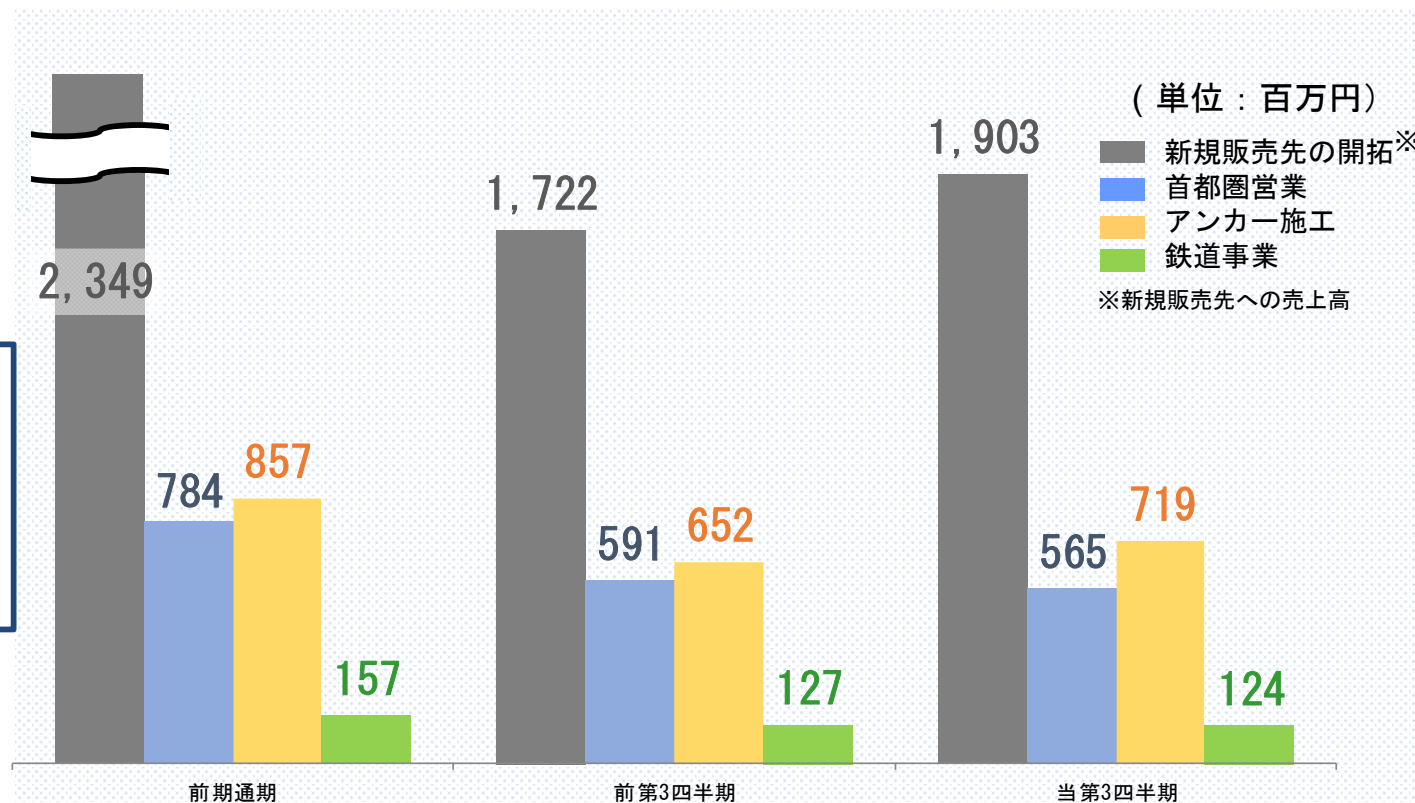
様々な成長戦略に着手



売上高
1,000億円へ

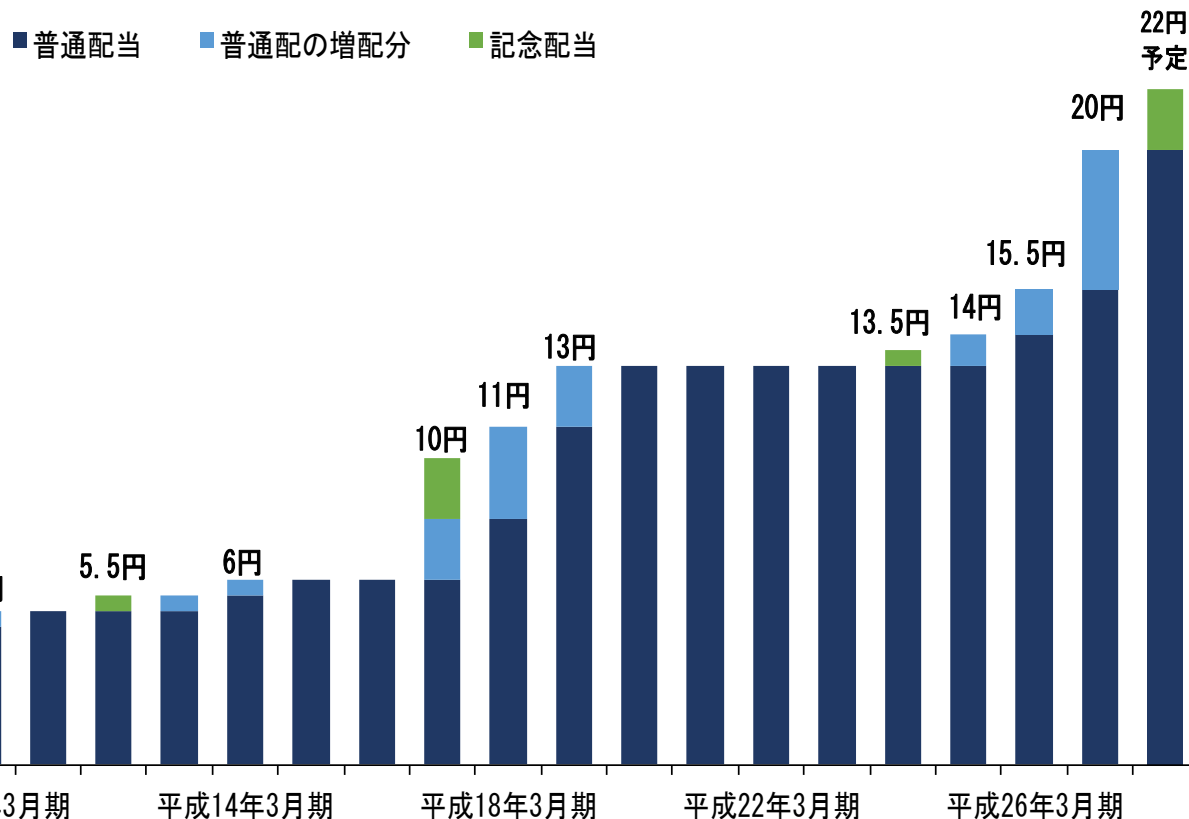
成長戦略 売上高推移 →

- ①新規販売先の開拓
- ②首都圏営業(本部サイドからの集中購買に対応)
- ③アンカー施工(製造に限らず、施工も実施)
- ④鉄道事業(角フックボルトの拡販)



6.株主還元

1株当たり年間配当金（中間配当あり）



当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な施策として位置づけ、今後もM&A等による戦略的投資、成長に向けた積極的な事業投資の拡大を図りながら、財務体質の強化など収益力の向上に努めるとともに、資本効率の向上に取り組んでまいります。

配当につきましては、連結業績、連結配当性向について十分留意しながら、連結純資産配当率(DOE) 2.5%以上を目標として、株主の皆様へ継続的・安定的に配当を行うことを基本方針としております。

DOEは、株主の皆様への利益配分を示す配当性向と資本効率を示す自己資本当期純利益率(ROE)の2つの要素から構成され、当社の掲げる株主価値の創造に資する指標となります。

※平成24年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。これに伴い、1株当たり配当金は当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。

NEWS

- 平成27年4月に上場20周年を迎えたことを記念し、2円の記念配当を実施いたします。



※平成24年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。これに伴い、
 株価、出来高は当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の終値
 を表記しております。

※平成24年12月に公募増資、第三者割当増資を行っております。







見通しに関する注記事項

本資料には、業績見通しおよび事業計画等を記載しております。
それらにつきましては各資料作成時点における経済環境や事業方針等の一定の前提に基づいて作成しております。
したがって、実際の業績は様々な要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。



〒550-0024

大阪市西区境川二丁目2番90号

TEL : 06 (6582) 8441 (代表) FAX : 06 (6582) 8410

ホームページ : <http://www.kondotec.co.jp>

E-mail : kikaku@kondotec.co.jp (総務部)